



word of mouth

この言葉を初めて知ったのは学生の時でした。ぼくのMマガジン初投稿の時にも話題に挙げた、渋谷穀オーケストラの演奏を初めて横浜ジャズブロードで見たときです。(そういえば、今年もそんな時期がやって来ましたね!横浜ジャズブロード!)かの有名なジャコ・パストリアスビッグバンドのアルバムタイトルの意味であるこの言葉は『口伝』という意味であることが大学を卒業してから。(写真①) 何度も何度もCDが擦り切れるくらい(実際には擦り切れませんが…)聞いたこのアルバム、ハーモニー、メロディーがとても素敵で、どこかアーバンなそしてロマンチックな展開があり全曲捨て曲なし、といったアルバムであると未だに信じて止まないのです。そしてこのアルバムの中で僕が一番好きな曲が"Three views of a seacret"という曲です。この曲をあえて邦題にするならば、「誰も見たことのない、三番目の秘密の景色」とでもいいましょうか。そんな素敵な情景が想像できる普及の名作であると思います。



▲①Jaco Pastorius 『Word of mouth』

耳にしたからです。それは毎週金曜日にイダカフェで営業している「Cool Down J」にいらしたお客様の一語でした。元住吉駅を降りてすぐのところにある、住吉神社でお囃子をやっているらしく、商店街で演奏されていたその動画を拝見させていただきました。(写真②) 管楽器奏者の僕は、綺麗で伸びやか、それでいてピンと存在感のある篠笛の音に非常に興味を持ち、恐れ多くも「篠笛のパートは募集していますか?」というのを軽い気持ちで聞きました。しかし、篠笛をやるにはまずは太鼓のパートができるようになってからである、ということでした。お囃子の中の篠笛の立ち位置は、全体を取り

仕切る指揮者のようなもので、お囃子全体を把握していないと統率できない、とのことでした。また、雑形形の五人囃子との関連もあり、それぞれの太鼓のリズムを順番に覚えていき、やっとな演奏することができるとも分かりました。ここで少し感じたのは、僕らの演奏しているジャズとは順番が異なるのかな、ということでした。お囃子とは違いジャズの演奏は、どのパートもメロディーに対してどのような伴奏をつけるのか、ということが大事であると考えます。たとえドラマーだとしてもその曲のメロディーを知っているか知らないかで、演奏の様子がガラリ180度変わってくると思います。逆にいうとメロディーを知っているからこそ、どのようなリズムが合うのか、ということも考えられます。しかしお囃子は太鼓のリズムが基本となり、そこから先に節が出てくる、ということなのかな、ということを考えました。音楽にも色々な形があり、その音楽がどのような形で伝承されるかということを知る出来事でした。



▲②住吉神社のお祭り

音楽を通して気さくに語り合える集いです。音楽好きな友の会 音友レコード倶楽部 ONTOMO Music Record Club 11月5日(日) / 11月19日(日) 午後1:30~午後4:30 イダナカ商店街 / 井田小学校正門前 イダカフェ 参加費¥500 / 飲み物¥500円(クッキー付き)

暫くぶりの『スティーヴィー・ワンダー』はかっこ良かった!!



▲①スティーヴィー・ワンダーヒット21

出がけに何気なく持って行きたくなった「スティーヴィー・ワンダーヒット21」のCD(写真①)。「音友レコード倶楽部」で使用しているイダカフェ会場の準備をしながら聴いてみようと思って出た。スティーヴィー・ワンダーはソウル、ポップ、R&B、ファンク、ジャズなどのメロディーメーカーとしてデビューした。音量を上げて聴いてみた。暫くぶりに聴いたソウルの8ビート、シェイクのリズムはとても気持ち良く、昔のドラマー気分を思い出した。「心の愛(I Just Called To Say I Love You)」、「イズント・シー・ラブリー

(Isn't She Lovely)」、スティーヴィー自身のドラム・ビートから始まる「迷信(Superstition)」など聴けば聴くほどリズムに乗ってくる。1972年に子供向けテレビ番組「セサミ・ストリート」でこの曲を演奏した際には、チャック・マンジョーネがトランペットで参加している。スティーヴィー・ワンダーの作品の素晴らしさを改めて感じた。積極的な踊りの好きな女の子、男の子がいたらツイスト?(古いね!)やスローな曲ならチークでも踊り始めそう(笑)。イダカフェがダンスホールになるかな。このスティーヴィー・ワンダーのCD1時間位あるけれど、能書き抜きでコピーでも飲みながら皆さんもノリノリで聴かれたら良いと思います。いやノリノリになっちゃいますよ。「サンシャイン(You Are The Sunshine Of My Life)」はスティーヴィー、スコット・エドワーズ(ベース)、ダニエル・ベン・ゼブロン(コンガ)の3人とゲスト・ボーカリストとしてジム・ギルストラップ、グロリア・パーリー、ラニ・グロウヴスが参加とのこと。自然と身体が動き始めますよ。私のもう一枚のCDは「高島忠夫・寿美花代の音楽大好き!!シリーズ~日本の洋画テーマ

20」(写真②)。この中から今や知る人ぞや知る「河は呼んでる(中原美紗緒)」が聴きたく持参。日本公開1958年で同名のフランス映画の主題歌。南仏プロバンス地方アルプス山麓から流れるデュランス河にまつわる物語。暫くぶりに聴きました。皆さんも同じ聞き慣れたレコード、CDでもオーディオ装置が違うとまたひと味違うのでぜひ持参して見て下さい。しかし今日は非常に残念なことに地震かなと思いきや大変な日になってしまいました。(塚田親一・記)



▲②高島忠夫・寿美花代の音楽大好き!!シリーズ~日本の洋画テーマ20

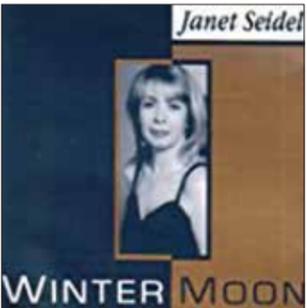
敬愛していたのだと、納得させられますね。同アルバムの同一曲で、ジャネットとドリス・デいの聴き比べをしてみるのも一興かと…。

今回の集いで、ジャネットのアルバムは殆んどコレクションしてあるという、ジャネットと同年代の方(勿論男性ですヨ)がいらして、恐らくリアルタイムで彼女のアルバムを聴かれていたのではと思いました。今回は思い掛かず、ジャンルは異なりますが男性・女性の歌声を聴きながら、会場のオーディオ・システムの再生音に関心を持った方が、「システム構成の違いで、再生音がこんなに違うんですね!」と、感嘆の声しきりでした。そう、歌声の味も変わってしまいますよね。今回は少人数でしたが、和やかなひと時を過ごすことが出来ました。(S.K.記)



▲④DORIS & ME

ジャネット・サイデルを偲びつつ



▲③WINTER MOON

今回の「レコード倶楽部」でも、もし時間があればジャネット・サイデルのCDを一枚バッグに入れて参加しました。いつも名盤や新情報などを紹介して下さるヴォーカル通の方がお見えになれば、多分ジャネット・サイデルの訃報と共に、彼女の弾き語りなどを聴かせてくれたのではないかと思います。Mマガジンのスペース埋めとして惜越ながら筆を執ることに。

オーストラリアの歌姫ジャネット・サイデル(Janet Seidel 1955年5月28日生まれ)が、先月(8月)7日に62才で亡くなりました。ジャネット・サイデルを知ったのは約20年前前だったと思いますが、ヴォーカル好きの仲

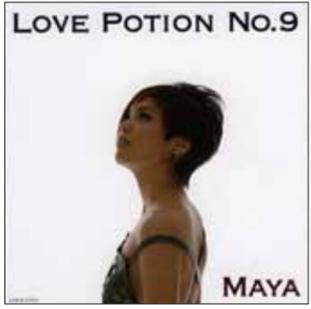
甘く切ない歌声。

ジャンルを問わない 独特な世界観に浸ってください!

ジャズのボーカル物あんまり聴かないんですよ。ポップスのアデルとかロックのスーザン・テデスキとかソウルのシャディ(古い!)とかは大好きなんです。ジャズボーカルは聴かない。何故ですかね?多分、「せっかく1流ミュージシャン達が演奏しているのに、歌手が歌っている間はバックに徹してしまっ、たいしたことはしていないような気がする。」からなんだろうと思います。凄く偏見ですね。ボーカリストの皆さん、どうもすいません。ってな訳ですので、持っているアルバムもヘレン・メリルの「With Clifford Brown」とかジュン・クリスティの「SomethingCool」(←これは大好きでした!)とか大名盤と言うか入門編と言うか、そんなのばかりです。

そんな私でも何人かは好きなボーカルがいて、今日はその中から、日本人のボーカリストMAYAをご紹介します。彼女の魅力をどうやってお伝えすれば良いのでしょうか?だいたい彼女をジャズボーカリストと呼んでしまっ良いのかな?いやわ、スタンダードをそつなく上手に歌ってタイプではありません。例えば彼女のメジャー・デビューアルバムではジャズはもちろん、キャロル・キングあり、スティービー・ワンダーあり、ラテンもあるしユーミンをボルトガル語でボサノバにしちゃったりしています。こう書くと、カバー曲の寄せ集めのように聞こえちゃいますが、とんでもない!何どのアルバムはスイングジャーナルのゴールドディスクを獲得していますよ!彼女の音楽はジャズボーカルと言う枠に入りきれないスケールの大きさがあるような気がします。これからお気に入りの3枚をご紹介しますが、それ以外にも本気でジャズばかり演っているアルバム、ブルースに特化したアルバム、最新作は何とシャンソンです。きつと才能の塊のような女性なんじゃないか。 さて、お気に入りの1枚目は「LOVE

PORTION NO.9」(写真①)。このアルバムでは9人編成のミニビッグバンド(?)とピアノトリオを曲目によって効果的に使い分けています。2曲目は私の大好きな「シャイニー・ストッキング」。ビッグバンドをバックにスイングしまっっています。また3曲目はサザンオールスターズの「夏をあきらめて」のボルトガル語バージョン!その後もラテンタッチの編曲を中心に多彩な曲を取り上げていて、聴いていて楽しいアルバムです。



▲①LOVE PORTION NO.9

2枚目は「Kiss of Fire」(写真②)。映画「男と女」のプロローグに始まりヒログで終わると、粋な演出をされたアルバムです。しかもフランス語!そればかりかこのアルバムでは英語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、そして日本語と6か国語で歌っています。凄いですね!でも、そんな事よりMAYAの魅力は、「いろいろなジャンルの曲を自由に選択してMAYAの世界を通して改めてその曲の魅力を教えてくれる」って事じゃないでしょうか。例えば8曲目「Fantasia」。この曲は私が大ファンであるアルゼンチン出身の歌手ガブリエラ・アンダースの曲です。オリジナルは囁き系の歌なのですが、ここではクールでタイトなラテン曲に仕上げているカッコイイ!だいたい、それ程メジャーではないガブリエラ・アンダースのカバーを始めて聴きました。それだけで感動ですね。 最後に極めつけのアルバム「マルチニークの女」(写真③)。これはもう、ハッキリ



▲②Kiss of Fire



▲③マルチニークの女

言うてラテンのアルバムです。毎月読んでいただいている方は「またラテンか」と思っているでしょうね。どうもすいません。ジャンルを問わず歌っているMAYAですが、やっぱりラテンがベストです。彼女のライナーノーツにこうあります。「MAYAとして、ラテンアルバムを出さなければ死ねない、みたいな。正直、思ってしまったから、ワタシ。」もう何も言う事はありません。Youtubeでも何でも良いので、是非聴いてみて下さい。お勧めは、1曲目のラテンの名曲に生まれ変わった「福村ジェーン」、5曲目は私の一番のお気に入り、甘く切ない「サポール・ア・ミ」、11曲目の妖しい魅力の「優しいマルチニークの女」などです。どうぞ、彼女の魅力に感嘆されてください。では、また来月。オーディオ!



▲③マルチニークの女

「銀河鉄道」くじら座・牧野ケント

空っぽになった隣の椅子に思い出が座る。窓越しに見える街並みから、一つ二つと明かりが消えてゆく。終点がなければ良いのにと、一人願う心とは裏腹に迎えた最後の駅。そこで僕はその夜を胸にしまふ。今夜を二人の思い出にすることはできずになかった。扉は閉まる。後ろ姿を見送ると、君の声が崩れた。目蓋の裏ではまだ大きく振られる手が残っていた。僕がずっとこのまま握りしめてしまいたい、と感じた手が残っていた。様々な気持ちの中で葛藤し、曲は意外なコードで締めくくられる。2分50秒間の楽曲の中には多くの景色が映っているが、銀河鉄道は前へと進んでゆく。ひたすらに進んでゆく。 ああ、作詞は難しい。ふわふわと浮かんでいる不確かな言葉を掴んで紡いで、その度目の前に踏切が立ち上がるものだ。そうして一つ一つの隔たりがなくなるのを静かに

待つ、僕はまた目的地を目指して進み始める。終点の見えない銀河鉄道に運ばれるように、人生を生きている。



▲牧野ケント

金曜日の夜は、元住吉、井田小学校正門前のジャズ喫茶で!! 音響装置はKT-88/6L6の真空管アンプで、暖かな音色がより疲れを癒します。



Every Friday is a jazzy night, Let's heal the fatigue of work Mマガジン持参の方お1人様1回につき、1ドリンクサービス! ★ ida cafe Friday Night ★ Cool Down-J. 毎週金曜日 17:00-23:00 L.O.22:30 元住吉駅西口下車、プレーメン通りを抜け徒歩12分。井田小学校正門前

天井が高く、残響もとても心地よい空間です。その特性を生かし大きな音で聴くのではなく、ホールで聴くライブ感覚をこのカフェは醸し出しています。週末のこともあり、店の名前は「Cool Down j.」。一週間の疲れを安らげる無理のないサウンドで、心を癒して帰途についていただきたい。おいしいコーヒーとお酒。おつまみをご用意しています。

- Cool Down j.の音響装置 ★アンプ:CAV T-88a、6L6自作、ONKYO A-913 ★スピーカーシステム: タンノイ・パークレー、ティアック。 ★プレーヤー:コスモ78回転仕様。 ★CDプレーヤー:パイオニア。



▲CAV T-88a